

一人一人の物語

卒塾生のお母さんから、こんなお言葉をいただいたことがある。「セミナー通信に登場するお子さんは、どの方も大変な努力家で、芯が強く、素敵な方ばかり。そんな先輩方のお話を憧れの心で読みつつ、自分の子に関しては後輩の参考になるようなものもないし・・・と、掲載されるなどとは夢にも思っていませんでした。」と。お子様をセミナー通信に掲載させていただいた際の謙遜されたお言葉であったが、私から見ればどうしてどうしてすばらしいお子様だった。

セミナー通信に塾生のエピソードを書かせていただくようになったのは2018年度からである。2017年度の卒塾生がたまたま12人で、一人一人の個性も強く、「この子達の頑張りを文章で残したい。1ヶ月に一人ずつ紹介できれば1年で書ききれぬ。」と思ったからだった。実際この年のセミナー通信は毎月塾生エピソードで埋まり、一年間他の内容は一切なかった。

次の2018年度卒塾生は13人。そもそも1ヶ月に一人書いていたのでは紹介しきれない。また、他の内容を一切書かないというわけにもいかなかったので、1ヶ月に一人だけではなく、数人まとめて書かせていただく月もあった。しかし、全員紹介させていただけた。2020年度卒塾生も同様である。2019年度卒塾生に関してだけは、残念ながら2020年度がコロナで大変な年だったため、セミナー通信もそもそも欠番が多く数人しか紹介できなかったが、今春彼らは高校を卒業予定なので、進路先の報告に来てくれて話が聞ければ、是非中学校生活に加えて高校生活についても書かせていただきたいと思っている。

つまり、このセミナー通信で紹介させていただいているのは、私が特別に選んだ塾生についてだけではないのである。全員である。一人一人に歩んできた日々があり、物語がある。決して上位校に進んだ塾生だけを取り上げているわけではないのだ。どんな状態からスタートして、どこに到達したのか、一人一人の闘いの軌跡を全てありのままに書かせていただいている。

昨年（2021年度）の卒塾生も残すところ7人である。一言ずつになってしまうが、今月と来月で全員紹介させていただく予定だ。一人残らずすばらしい塾生だった。

まずは春日丘高校に進学したHちゃん。中部大に進み建築士になることを目指している。真面目で誠実で人に対してはほとんど優しいが、自分に対しては甘やかすことは決してなかった。どんなに思うような結果が出なかった時でも、腐らず、諦めず、次に向かってコツコツ努力し続けた。高校に進んだ今もそれは変わらない。学校から成績急上昇のため努力賞で表彰されたのである。一段一段階段を上っていくHちゃん。上った先の景色をいつか聞かせてほしい。